

夏休みの思い出アルバム

水の週間にウナギとカニを放流

第31回全国水の週間にちなんでウナギとモクズガニの放流が8月1日、志佐川で行われました。

水の大切さなどの理解を深める親水活動として平成16年度から市水道課が行っており、ウナギやカニの放流は3回目。

この日は、志佐小と上志佐小の児童、電源開発と九州電力の社員など約50人が参加。ウナギ約200匹とモクズガニ約400匹を放流し、きれいな志佐川を願いました。

放流を行った志佐小4年の松永英暉くん（志佐・上野）は、「いろいろな生き物が生きていくための大切な川をきれいにしないといけないと思いました」と話していました。



頑張れ！もっと引っ張れ！

— 夏休み恒例 カブトムシ綱引き大会 —



夏休み恒例行事のカブトムシ綱引き大会（今福公民館主催）が8月6日、今福公民館で開催されました。

今年は、小学生約30人が自慢のカブトムシと一緒に参加し、今福町長寿会の約10人が審判を務めました。

直径80mmの土俵の上で、2匹のカブトムシの角にひもを結びつけ、どちらが先に円の外に出るかを競いました。参加した小学生は、土俵の外側をドンドンたたきながら、自分のカブトムシに「頑張れ！」と白熱した応援。優勝した山中結以果さん（今福小3年、今福・北東2）は、「おばあちゃんがもらってきてくれたカブトムシで、優勝できてうれしかったです」と話してくれました。

またこの日は、クワガタムシ美虫コンテストも行われ、香嶋大志君（今福小2年、今福・本町）が優勝しました。

豆力士が熱戦 — 千燈籠奉納相撲大会 —

郭公尾地区の伝統行事千燈籠奉納相撲大会が8月17日、御堂様前広場で行われました。

郭公尾自治会（山本信義区長）が、地域住民の親睦と子どもたちの健全育成を願い毎年実施しています。

土俵上では、地元の園児・小中学生や夏休みで帰省した豆力士たちが熱の入った取組を展開。押し出しなどの技が決まったり、中には土俵上で逃げ回る豆力士がいたりして、集まった住民から笑いや歓声が上がっていました。

取組が終わると子どもたちや集まった観客に、1年間の健康を願って、地元住民の手で作られた「力飯」と呼ばれる大きなおむすびも振る舞われました。



星鹿じゃんがら・牟田じゃんがら

— お墓たいて無病息災 —

星鹿町星鹿、牟田の両地区で8月15日、盆行事の「じゃんがら」が行われ、地域住民が豊作や豊漁、無病息災などを祈願しました。

星鹿地区の「星鹿じゃんがら」では、法被姿の子どもや大人約20人が地区一帯を練り歩き、僧の墓とされる石塚や浄土寺境内で、長さ約20cmの「大のぼり」や子ども用の「小のぼり」を地面に打ち付け、豊漁や無病息災を祈願しました。

牟田地区の「牟田じゃんがら」には住民ら約30人が参加。非業の死を遂げた武将「御厨徳」の墓とされる場所で、子どもたちが「ナム、ホーリ、ホッボンジャ」「ホイホイ」の掛け声に合わせて、のぼりで墓を突いて、豊作や無病息災を祈願しました。



星鹿じゃんがらの様子



牟田じゃんがらの様子

鷹島町と福島町で国内交流

●鷹島町でホークス交流

7月27日から31日にかけて、北海道鷹栖町と鷹島町の児童がホークス交流を行いました。

「鷹」のつく町として、11年前から毎年交流を深めており、夏休みに鷹栖町の児童が鷹島町を訪れ、冬休みに鷹島町の児童が鷹栖町を訪問しています。

滞在中は、鷹栖町の6人の児童が、鷹島町のホストファミリーの各家庭でホームステイし、町内観光や定置網漁、海水浴を体験し交流を深めました。



— ホークス交流と三福島交流 —

●福島町で三福島交流

8月8日から11日にかけて、長野県木曾町（旧木曾福島町）と福島町の生徒が三福島町生徒学習交流を行いました。

「福島」の名を持つ2町と北海道福島町の生徒が交流し、広い視野と豊かな郷土愛を持つ人材の育成を目的として、18年前から交流。夏休みに他町の生徒が福島町を訪れ、冬に福島町の生徒が他町をそれぞれ訪問しています。

滞在中は、長野県木曾町の6人の生徒が、福島町のホストファミリーの各家庭でホームステイし、クルージングや魚釣り、市内見学などをして交流を深めました。

